

NO MORE 大学離れ ～アシストとしての ICT～

F 班 1 グループ 8 人のサムライブルー

1. はじめに

テーマ設定に当たって、それぞれの大学の抱える問題について話し合った。その中で、共通の問題として学生の「大学離れ」というキーワードが浮かび上がった。そこで、その原因を学生側と大学側の二つの側面から考え、ICTを活用して現在取り組んでいることに加え、今後取り組むべき課題について検討した。

2. 問題点

各大学が抱える問題を話し合っていく中で、離籍率の増加、教職員の ICT 活用スキル不足、一人で昼食が食べられないといったコミュニケーション能力不足の学生の存在、学生と教職員の距離感、学習意欲の低下、愛校心の低下など様々な問題が存在していることが浮き彫りになった。

その中から、グループ討議のテーマとして「大学離れ」を取り上げることにした。

3. 考察

学生の「大学離れ」の原因を、学生側の視点、大学側の視点の両面から考察した。

学生側の問題としてはメンタル面の弱さ、コミュニケーション能力の低下、学習意欲の低下、キャリアデザインが描けない等といった問題が挙げられる。

また、大学側の問題としては、授業の運営方法、学生が気軽に相談できる場が存在しないこと、大学の魅力についての情報発信不足という問題が挙げられる。

これらの問題に対して、ICTを活用して各大学がすでに取り組んでいるツールとしては、ポータルサイト(休講情報、履修手続、WEBシラバス、時間割情報等)や、e-learning(授業教材の配布、レポート提出等)が挙げられる。しかし、これらのツールだけではカバーしきれていない部分が存在するのではないかという考えに至った。

そこで私たちは、キャリアデザインが描けないという学生側の問題と、気軽に相談できる場が存在しないという大学側の問題の2つに焦点を当て、それぞれの問題に対しての解決策を考案した。前者については、履修モデル検索ツール「みらいのあなた」、後者については、グループ内の一人が所属する大学での「ちょこっと相談」という取り組みを参考に、学生が気軽に相談できるWEB相談ツール「ちょこっと相談ブログ」である。

4. 考案① 履修モデル「みらいのあなた」

近年、時間割を作成することも出来ずにいる学生が増加の傾向にある。それは、自身のキャリアデザインが描けない、卒業するまでの4年間の学生生活がイメージ出来ていないことが原因と考えられる。そこで提案したいのが「みらいのあなた」という履修モデルの検索ツールである。

このツールの特徴は、学生が、希望する就職先や学びたいことなど興味のあるカテゴリーを選択することによって、該当する卒業生の4年間の履修状況や就職状況などがモデルプランとして見るができる点である。学期ごとの時間割や卒業までの流れをイメージできるようになり、大学生活の目標を見つけるきっかけになるのではないかと考える。

#### 5. 考案② 相談ツール「ちょこプロ」

現行のカウンセリングルームには敷居の高さを感じてしまう学生に対して、気軽に相談できる場を提供したいという発想から、「ちょこっと相談ブログ」略して「ちょこプロ」を提案したいと思う。

このツールの特徴としては、教職員と学生のWEB上での掲示板のような要素を含んでおり、具体的には、履修相談、学生生活、心配事等、学生が相談したい内容によって項目を選択し、悩みを書き込むと、回答が得られるようになっている。相談内容を匿名化して公開することで、類似の悩みを抱えた他の学生にとっても有益な情報となると考えられる。

#### 6. 分析

これらのツールがどのように学生の大学離れといった問題の改善に繋がっていくのかをPDCAサイクルにそって分析していく。

まず履修モデル「みらいのあなた」では、収集したデータを分析することにより、学生が求めている授業内容、希望業種の傾向、留学への興味等について把握することができ、学生のニーズに合わせたカリキュラム改善やよりよい情報提供が可能となる。例えば、データを分析することによって、経済学部で留学に興味を持つ学生が多いということが分かれば、経済学部生対象の留学説明会を実施する、というような対応ができる。

WEB相談ツール「ちょこプロ」についても、データを分析する事によって浮かび上がる、学生の不満や不安に対応する為、ニーズにあった説明会の実施や教職員の人的資源の再配置検討のデータが得られる。また、大学として取り組むべき新たな課題の解決や発展にも繋がっていく。例えば、データを分析することで、心に悩みを抱えている学生が多いということが明らかになり、現状のカウンセラー配置では対応できていないことがわかれば、新たな人員配置を計画することも可能になる。

さらには、上記のツールの利用状況より集められたデータを、継続してCheckし、新たなActionを起こしていくことで、最初に提示した学生の大学離れの原因である「授業の運営方法」「情報発信不足」といった他の問題に対しての解決にも結びついていくと考える。

#### 7. まとめ

これらのことから、ICTの活用により問題を可視化することで、授業の質の改善や学生に対する職員の十分なサービス、充実したキャンパスライフを提供することが可能となり、学生の大学離れといった問題が改善されると考える。また、入学から卒業まで、教職員が一丸となって学生をアシストすることによって、社会から求められている「質の保証」につながり、大学の責務も達成される。

以上